



〒 242-0007 大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiawase@edventure.jp URL <https://edventure.jp/>

若い先生方には是非とも考えてもらいたい問題

いよいよアメリカでは、第 47 代大統領としてドナルド・トランプ氏が再度就任しました。就任初日には多くの大統領令にサインし、「米国第一主義」を鮮明にしています。そうした中、非常に驚かされたのが、WHO（世界保健機構）からの脱退や気候変動の国際ルールである「パリ協定」からの離脱です。これらは、多くの時間をかけて、国際的な努力により一定の合意として作り上げられてきました。当然未来の地球やそこに生活する人々を、国を超えて守っていこうとする姿勢の上に構築されたものです。それらが新しい大統領のサイン一つでないがしろにされ、「アメリカはアメリカだけの都合で判断していく。環境破壊や発展途上国の人々はどうでもよい」という姿勢を、世界に向けて鮮明に発信したことにほかなりません。

また一方では、人としての価値観にまで踏み込み、「思い」や人の「在り方」を破壊しようとしています。それが「性別は男性と女性の二つのみ」という、人としての多様性を全く認めない威圧的な発言です。人々が「他者の思い」を尊重し、社会的に作り上げてきた価値観を根底から崩そうとする暴挙のように思うのです。

このようなトランプ氏の発言は、遠い国の出来事として片づけるわけにはいきません。なぜなら、トランプ氏の姿勢や考え方に通ずる政治的な動きが、様々な場面やいろいろな国において広がってきているからです。例えば、マリーヌ・ルペン氏が率いるフランスの「国民連合」、ドイツでは「ドイツのための選択肢」、イギリスでは「イギリス国民党」。今回アメリカの選挙でトランプ氏の横に常にいたイーロン・マスク氏は、選挙前に「ドイツのための選択肢」の党首と会談し、支持を鮮明にしています。

このような動きを一つ一つ追っていくと、トランプ大統領の発言は、思い付きの打ち上げ花火のように捉えられません。世界中で確実に、第二次世界大戦後の国際社会が作り上げてきた、民主的で多様性を認める価値観を否定しようとする政治的動きが激しくなっているのです。それは、地の底から聞こえてくる、恐ろしい鳴動のようにも思うのです。世界は大きな二つの流れに分断されつつあり、アメリカであらわれている現在の状況は、まさしく世界の分断の象徴と言えるのではないのでしょうか。（この世界的な「分断」の背景に関しては、いつかどこかで皆さんと一緒に考えてみたいと思います）

そして、この世界的な動きは、日本の小中学校の現場と無縁ではありません。例えば、「性別は男性と女性の二つのみ」という考え方に組みするのか、それともしないのか。そこには、多様性を認めるのか、それとも認めないのかという問いがあり、私たち大人は、子どもたちから問われることとなります。「どちらでもない」、という答えは子どもたちには通用しません。

多様性を認めず、「男性と女性」にこだわる考え方はもちろん日本にもありますし、女性の社会的地位に関しては、それこそ前近代的であるといっても過言ではありません。夫婦別姓は依然認められず、政治の場での女性の少なさもいつまでもたっても解消されません。そうした日本であっても、学校現場では少しずつ答えを出してきました。そのよい例が、大和市の中学校での男女の制服の乗り入れです。男性、女性として決めるのではなく、一人の人間としての選択を尊重する姿勢は、未来を作り出す子どもたちに、「多様性を大切にする」価値観を明らかに育てるものだと言えます。

そうした中で、もし日本という国そのものが、「性別は男性と女性のみ」と問題を突きつけられたら、現在の日本はどう答えるのでしょうか。トランプ氏に迎合していくような気がしてしまうのは、私だけでしょうか。そして、それで本当に良いのでしょうか。

学校では教科学習や共同生活の中で、多くの社会的価値観を子どもたちに伝える役目があります。しかもその価値観は、現状を超えて、未来を創り出す子どもたちだからこそ、身に付けてほしい価値観を伝えていく役目を、先生方は担っています。それが学校の公的な役割です。他の学校に負けないように、学力の数値を伸ばすことが公的な役割ではありません。

しかし残念ながら、戦後の学校教育はその過程の中で、「経済成長崇拜」の経済界の要望を受け入れ、産業界にとっての有能な人材育成機関としての姿に変わってきました。そこでは児童生徒個人の学力が一番の価値基準であり、現在では、大学卒業までには、個人個人の学力によってきれいに序列化されるシステムが完成しています。子ども同士が分断されているのです。

これはもう本来の学校ではありません。学習塾と何ら変わりはありません。では、学習塾を「公

的教育機関」と呼びますか？そして、他方で「学力中心主義」の学校は、子どもたちから見放され始めています。この Ed.ベンチャリでも指摘し続けてきた不登校をはじめとする多くの問題は、ここを原因としているのではないのでしょうか。

学校をみんなが行きたくなくなる学校に再生して欲しい！序列もなく、分断もない、「みんなにとって意味のある」学校に変えてほしい！・・・これが子どもたちの声です。

若い先生方にお尋ねします。先生方は、こうした子どもたちの声に、どのように応えますか。もちろん経験のある先生方は、こうした現在の学校状況に責任を感じなければなりません。でも、若い先生方が子どもたちの問いに必死に答えるとき、その時未来の序列や分断を超える可能性が生まれてくるように思うのです。

そしてもう一つ、学校の再生を考えるときに、是非若い先生方に考えていただきたい視点が、この間お伝えしてきた「平和」の問題です。「平和」という言葉には、序列と分断を超える力があります。「戦争をしない」というだけでなく、人と人が認め合い支え合うこと、人と人が共存することを意味しています。しかし、現在の学校で使われる「平和」は、「戦争をしない」という意味に限定され、狭く捉えられてきたような気がします。どうでしょう、今までのそれぞれの経験の中で、子どもの時に学校で受けた平和についての教育は、皆さんの中でどのような影響を残してきたのでしょうか。振り返ってみてください。または、皆さんの経験の中で、序列と分断を超えるどんな言葉を、学校教育の中で受けてきたのでしょうか。「みんな仲良く」ですか？それとも「人はみな平等」ですか？教条主義的なそれらの言葉は、ほとんど言葉としての力を失っています。また、「平和」という言葉も、教条主義的な軽い言葉になり下がってしまっているのかもしれない。「人は平等」と言っても平等が達成されるわけもなく、「平和」といくら言っても「平和」な状態が実現されるわけではありません。

もし、「平和」を序列と分断を超える言葉とするならば、そこには「平和を達成するための努力と格闘」があってこそです。そして、その「努力と格闘」こそが、教育の現場で子どもたちに伝えなければならないことなのではないのでしょうか。それこそが、先ほどの子どもたちの声に応える道のように思えるのですが、いかがでしょうか。

今年の教育講演会は、若い世代として、核兵器のない世界の実現を願って活動している「カクワカ広島」の共同代表である田中美穂さんをお招きしてお話をお聞きするとともに、その後のパネルディスカッションでは、大学生を含む若い世代のパネラーたちと、今まで述べてきた課題を含め討論します。きっと様々なことを考えるきっかけになることは間違いないので、是非会場にお越しください。



2025年度 教育講演会

- 講師 田中 美穂氏 (核政策を知りたい広島若者有権者の会共同代表)
- 日時 2025年2月16日(日)13:30~
- 場所 大和市富士見文化会館101号室
- パネラー ・細江 新斗 氏 (大和市中学校教諭)
・西岡 歩 氏 (座間市中学校教諭)
・森田 陽菜 氏 (大学生)
- 司会 柿本 隆夫 氏

これからのEd.ベンチャーの学習会

●3月29日(土) Ed.ベンチャー総合学習会@大和市シリウス

午前の部 : 10:30~ インクルーシブな社会を目指す学習会

★参加者それぞれの現場から排除の実態を報告し合い、現状を認識する。

午後の部Ⅰ : 13:30~ 外国人の子ども理解のための学習会

★修士論文研究発表

- ・移民第二世代女性の進路決定をめぐるダイナミズム (大学院生 河村優花氏)
- ・ペルー日本人移民の生活史とアイデンティティに関する一考察 (大学院生 タイペマリエラ氏)

午後の部Ⅱ : 16:15~ 授業研究会

★卒業論文研究発表

- ・脱資本主義の思想としての地方移住の可能性を考える
—教育観や子育てに対する考え方に焦点を当てて—

(大学4年生 門井みなみ氏)

◆理事のひとこと◆ 第二次トランプ政権が始まり、「独裁」の急激な変化に追いつけない。「世界の富豪」も就任式に参列し、どんな権力者も牙を抜かれたように居座っている。就任早々に大統領令を振りかざし、ターゲットへの経済的な制裁を煽るようなパフォーマンスは、戦争を吹っ掛けている雰囲気そのものである。この暴走にブレーキをかけるためにも、日本社会に対しても今ある生活も「言いなり」にならないためにも私たちにもできることを始めたい。(AN)